

混合機、粉碎機を起因物（小）とする死亡災害事例（1999-2020年）

年	月	発 生 時	死亡災害事例	業種 (小) コード	事故 の型 コー ド	労働 者規 模
1999	1	13 ～ 14	ゴム再生工場において、裁断されたタイヤチューブを粉碎機に投入する作業中に、粉碎機の粉碎ローラーに巻き込まれた。	10806	7	10～ 29
1999	1	10 ～ 11	コンクリートミキサーで清掃作業を行っていたところ、操作盤の押ボタンの修理に来た電気業者が誤って「ミキサー入」ボタンを押下したため、ミキサーが半回転しこれに足が巻き込まれた。	10901	7	10～ 29
1999	1	16 ～ 17	水産工場内の氷の吸送ホッパーを試運転中にホッパーの中に金属部品が入っているのに気付いてこれを取り除こうとして中に入ったときに、まだ電源が切られていなかったため回転羽根がタイマーにより再起動して回転羽根とスクリュウコンベアーとの間に挟まれた。	11301	7	1～9
1999	1	16 ～ 17	廃棄物を破碎機内に投入する作業中に、破碎機に巻き込まれた。	150102	7	10～ 29
1999	1	11 ～ 12	砂利碎石プラント内にある2次クラッシャー用ホッパー内の原石の状態を点検するため、投入口からのぞき込んでいたところ、雪で足を滑らせて、深さ約2mのホッパー内に転落した。	20202	1	10～ 29
1999	4	11 ～ 12	コンクリートミキサーを用いてモルタルの製造を行っていてコンクリートミキサー内の羽に巻き込まれた。	30201	7	10～ 29
1999	6	15 ～	鋼製の容器の底に残ったアルミ缶の塊を破碎機の投入口に投入するため、容器の中で作業をしていて破碎機のロールに挟まれた。	80109	7	1～9

		16				
1999	7	6 ～ 7	コンクリートプラントの砂利ホッパーが詰まったため、ホッパーの流量を調整するシリンダーの分解補修をしていたときに、ホッパー内の砂と共に混練機に落ち、巻き込まれた。	10901	7	10～ 29
1999	8	16 ～ 17	男子便所の出入口に倒れていた者を同じ便所から出てきた同僚が発見し、救急車で病院に搬送したが、頭部打撲による頭蓋骨骨折等で死亡した。	10901	1	300 ～ 499
1999	8	15 ～ 16	粉碎機につまった石灰石を取り除くため粉碎機の蓋(鉄製1130kg)をクレーン(テルハ)で吊り上げて取り外していたときに、回転中のハンマーに蓋が当たって跳ね飛ばされて激突した。	10909	6	1～9
1999	10	8 ～ 9	惣菜製造会社の工場で攪拌機(混合機)によるハウレン草の白あえを製造後、攪拌機からゴムベラで、内容物を取り出す作業を行うときに、回転羽が邪魔になるので同僚が回転羽の位置を変えるために攪拌機のスイッチを入れたため、回転羽と攪拌機本体に巻き込まれた。	10109	7	50～ 99
1999	11	13 ～ 14	ダム工事用道路の工事現場において、法面のコンクリート吹付用プラントの内部を清掃しているときに、ミキサーの羽に巻き込まれ全身打撲した。また、救出しようとしてミキサーの中に入った者もミキサーの羽に両足を挟まれ両足を骨折した。	30106	7	1～9
1999	12	19 ～ 20	バッチャープラント3階のミキサー室で、ミキサーの回転羽根及び周囲の壁に付着したコンクリートのカスを除去するためにジェットタガネを使用して清掃中、ジェットタガネのジョイント部分がホースから外れてミキサー内に落ちたため身を乗り出して拾おうとしたときに誤ってミキサーから6m下のホッパーに転落した。	10901	1	50～ 99
2000	10	10 ～ 11	採石現場のクラッシャー操作を行っていて、ホッパー上部の開口部(縦112cm・横95cm)から墜落し、クラッシャーの歯に頭部をはさまれた。	20201	7	1～9
		9	砕石プラントのベルトコンベアで運ばれる砕石の量が少ないことを不			

2000	12	～	審に思っ、一次クラッシャーのシュート部を見に行ったところ、稼働中のクラッシャーに挟まれている同僚を発見した。	20201	7	1～9
2000	7	～	1 配合肥料工場の原料置場において、粗碎機ホッパーに原料の尿素を 2 ショベルローダーで投入する作業の終了後ホッパーの清掃を行って いてホッパー内に転落し、左足を粗碎機に巻き込まれた。	10801	7	30～ 49
2000	8	～	15 吹付けコンクリートプラントの一部であるコンクリートミキサー部分 16 の清掃業務を行っていて、ミキサーからホッパーへコンクリートを排 出するため可動式の仕切板であるカットオフゲートに胸部を挟まれ た。	30102	7	1～9
2000	8	～	16 コンクリートプラントの強制2軸ミキサー(砂・水等を混合し生コンを 17 製造する機械)の内部を清掃作業中、機械を停止せずに作業していたた め回転軸に巻き込まれた。	10901	7	10～ 29
2000	7	～	0 プラスチック破砕機の破砕刃部上方にテレビ枠(破砕物)が詰まったの 1 で、自動運転から手動運転に切り換え投入口からテレビ枠を取り出し てコンベア上に乗せたときにコンベア上にあったテレビ枠に当って下 に転がって行き、その時にコンベアに設置されている破砕物検知用光 電管が通電して投入口の蓋が閉まったため、投入口と蓋に首、胸部を 挟まれた。	11402	7	300 ～
2000	6	～	9 醤油粕粉碎処理装置のフレームの上で他の作業員の作業を確認してい 10 てバランスを崩し、装置フレーム端から4m下のアスファルト床へ墜落 した。	30302	1	30～ 49
2000	3	～	14 業務用粉石鹼を製造するミキサーに原料を投入するため、投入する高 15 さまでフォークリフトのフォークを上昇させてパレットを装着し、足 場を作っていたときにミキサーの内部に転落した。	10899	7	1～9
2000	6	～	15 コンクリート混合作業場において、コンクリートミキサーの羽根の取 り換え作業をコンクリート投下口で行っていたときにミキサーの投下 16 口の蓋が閉まり、蓋に挟まれた。	10901	7	50～ 99

2000	8	10 ～ 11	ミキサー車を洗うときに出る汚水処理する沈殿槽(深さ約3m)の中で攪拌機の羽根に挟まって死亡しているのを同僚が発見した。	10901	7	10～ 29
2001	1	14 ～ 15	チョコレートを溶解するための攪拌装置付きタンクの上部蓋(直径40cm)を開放して原料用チョコレートをタンク内へ投入しているときにタンク内に原料用チョコレート空ビニール袋が落ちたため、取り除こうとしてタンク内に上半身を入れて覗き込んでいたところ回転してきた攪拌用の羽根に巻き込まれ、タンクの上部蓋との間にはさまれた。	10104	7	30～ 49
2001	1	16 ～ 17	採石場の一次破碎クラッシャーの点検、見回り作業中にジョークラッシャー内に転落し、稼働中であつた破碎板に頭部を挟まれた。	20201	1	10～ 29
2001	2	14 ～ 15	塗料の製造工程において、円筒形・開放型の仕込みタンク(直径135cm、深さ約110cm、容量1620リットル)に原料を仕込んだのち、攪拌機で原料を混合していて、タンクに墜落し攪拌機に巻き込まれた。	10808	7	50～ 99
2001	3	9 ～ 10	麴室において、麴を攪拌する麴手入機下部の羽の向きを変える作業中に、麴手入機フレームが帯電していたため頭部が触れたときに感電した。	10109	13	10～ 29
2001	3	13 ～ 14	工場内において、鋳物に用いる砂をサンドミル(混合機)を用いて混合する作業中、サンドミル内に巻き込まれた。	11002	7	10～ 29
2001	3	10 ～ 11	生コンクリート製造用ミキサー内壁の摩耗防止用の内貼(ライナー)の取替えて試運転を行うときに、生コン搬出口(ゲート)の扉が閉まらないのでゲートに上半身を突っ込んで調整作業していたところ、突然閉まったゲートに頭部を挟まれた。	10901	7	50～ 99
2001	4	13 ～ 14	建築廃材(鉄筋コンクリート)を破碎して礫として製品にする作業において、2次破碎に用いるスクロールクラッシャーの振動ふるいが作動しなくなったため、様子を見に行き振動ふるいを飛び越えようとして、ローラーミルの部分に両下肢を巻き込まれた。	150102	7	1～9

2001	5	14 ～ 15	滑走路の舗装に使用するセメントの混合用プラントにおいて、作業終了後にミキサー部分の清掃を行っていたとき、ミキサーが作動したためシャフト部分のはつり作業をしていた者がミキサーに巻き込まれた。	30106	7	10～ 29
2001	9	15 ～ 16	生コン用ミキサー内部の洗浄作業で、ミキサーのアームを回転させながらミキサー内部をホースの水で洗浄していたところ、誤って点検口からミキサー内部に転落して回転中のアームに巻き込まれ、放出口よりコンクリートホッパーを通過し1階の投入ホッパーに落下した。	10901	7	1～9
2001	9	5 ～ 6	素麺を作る下拵え作業を行っていて、ミキサー(小麦粉と塩水を混ぜ、こねる機械)に全身を巻き込まれた。	10109	7	1～9
2001	10	8 ～ 9	採石プラントの集中管理室で整粒機が異常を示したので、集中管理室で整粒機を停止させ、点検口より内部に入って整粒機下部にあるコンベヤーにはさまれた。	20201	7	10～ 29
2002	1	8 ～ 9	牛舎のパドックにおいて、カッティングミキサー（自走式で飼料を混合、搬出する機械）で乳牛に給餌中、ミキサーのホッパー上部で餌（乾草、グラスサイレージ、飼料の混合物）が固まってしまったので、ホッパーのへり上で掻き落とす作業を行っていたときにホッパー内に転落し、稼働していたスクリー部分に右足部分から巻き込まれた。	70101	7	30～ 49
2002	2	9 ～ 10	産業廃棄物再生処理工場において、破碎状況の監視業務中に異常が発見されたので操作盤の停止釦を順に押して全ての機械の稼働を停止させたが、そのときに二次破碎機の投入口から誤って破碎機の内部に転落し、惰性で回転中のローターに巻き込まれた。	10804	7	10～ 29
2002	3	10	汚泥から肥料を製造している工場の発酵室において、発酵させている肥料をかきまぜる機械（スクーパー）の運転を停止してスクーパー上で昇降用モーターを点検中、チェーンがギアから外れることを防止す	150103	7	1～9

		11	るピンを抜いたため、チェーンが外れてかきませ部と一体となっている背板が下降し、昇降用モーターとの間に胸部と腹部を挟まれた。			
2002	1	14 ～ 15	機械を停止して生コンプラントのミキサー及びホッパー内でミキサー内部のライナー（鉄板）を張り替えていたところ、突然ゲートが閉まり首と肩を挟まれた。	10901	7	10～ 29
2002	5	14 ～ 15	NCラインの設置工事において、バリニーター（混合機、重量約1.5t）を工場内に搬入して据付け位置調整のためジャッキアップしてローラーを取り付けていたときに、機械のバランスが崩れて横転しその下敷きとなった。	30302	5	1～9
2002	3	13 ～ 14	粉砕機周辺で作業をしていて、粉砕機に巻き込まれた。	170209	7	1～9
2002	5	8 ～ 9	廃木材をチップ材に再生する再生工場において、始業時にプラントを稼働させるため別の場所にいた同僚がシュレッダー（粉砕機）の運転スイッチを入れたところ、シュレッダー（粉砕機）に巻き込まれた。	150102	7	1～9
2002	6	11 ～ 12	ガラス容器をリサイクルするためコンベア上でガラスの色ごとに選別してロータリークラシャーで破碎作業中、ロータリークラシャーから雑音が聞こえてきたので、ロータリークラシャー上の異物を取り除こうとロータリークラシャーに近づき巻き込まれた。	80109	7	30～ 49
2002	6	15 ～ 16	破碎機（クローラ式の下部走行体に2軸せん断機とホッパー・排出コンベヤーがついている、質量16t）で畳の破碎中に、せん断機が詰まったのでホッパー内に降り、せん断機のカッターに両下肢、両上肢を巻き込まれた。	150102	7	30～ 49
2002	6	9 ～ 10	建設廃材のリサイクル工場内で、コンクリート廃材破碎装置を用いコンクリートがらの粉碎をしていたときに、機械の開口部から転落（約2m）しクラッシャーに挟まれた。	10909	1	1～9
		9	重機用マットの製造ラインで、材料の粒状ゴムを計量して円柱型攪拌			

2002	8	～ 10	用ミキサーへ投入後、攪拌用ミキサー内に立ち入っていたときに、製造ラインに戻ったオペレーターがミキサーを起動してしまったため巻き込まれた。	10806	7	10～ 29
2002	8	14 ～ 15	廃棄物処理プラントにおいて、破砕機へ投入するコンベヤーのプーリーに付着した異物を取除こうとして、コンベヤー先端付近から稼働している破砕機ホッパー内に墜落し、下肢を破砕機の回転歯に巻き込まれた。	150102	7	10～ 29
2002	10	～ 3	製紙会社で、パルパー（間口の直径2m、深さ2.3m）へ原料（損紙等）の投入作業を夜勤で従事していた者の姿が未明から見当たらなくなったので探したところ、パルパーの底部で遺体となって発見された。	10601	1	10～ 29
2002	12	13 ～ 14	ビニルハウス内での養土製造作業で、養土攪拌機に土を入れようとしたが底部に前回の土が残っていたため、攪拌機を動かしながらシャベルで残土を取り除こうとして、攪拌機の土を攪拌するバーと攪拌機の底部との間に頭部、右腕部を挟まれた。	60101	7	1～9
2002	11	16 ～ 17	瓦の下地材製造に使用する混合機の清掃中に混合機が突然動き出したため、中にいた者が内部の混合用のスクリューに下半身を巻き込まれた。	10909	7	1～9
2003	2	～ 16	砂利の洗浄・選別作業場で、インパクトクラッシャーのハンマー整備作業を行っていたときに、インパクトクラッシャー下方のベルトコンベヤに巻き込まれた。	20202	7	10～ 29
2003	3	15 ～ 16	ゼラチンカプセルに充填する栄養補助食品の原料を、攪拌（かくはん）機および乳化分散機を上部に取り付けたステンレス製の「乳化溶解釜」で混合し、混合された原料を釜から抜いたあと、釜の内部に付着した原料をゴムベラでかき落としていたところ、溶解釜の蓋(重さ950kg)を持ち上げるための昇降装置のギヤシャフトが軸受けから外れ落ちたために蓋が下がり、釜と蓋との間にはさまれ前胸部を切断された。	10109	7	100 ～ 299
		16	工場内で、ゼオライト鉱石を粉碎する粉碎機（ローラーミル）が停止			

2003	3	～	したので復旧作業を行っていたときに、機械が突然作動したため全身	10909	7	10～ 29
		17	を巻き込まれた。			
2003	4	～	生コンクリート出荷が終了したのち、ミキサー室（2F）にあるバッ	10901	7	10～ 29
		18	チャープラント内の清掃を行っていた者が稼働中のバッチャープラン			
		19	ト内で発見された。			
2003	6	～	破砕機（建設廃材を木屑にする機械）のローラーに木屑がはさまった	150103	7	10～ 29
		8	ので、手動に切替えて破砕機の水平投入供給ユニット（質量約2.5t）を			
		9	上昇させ、破砕機の中に入ってローラーにはさまった木屑を除去して			
			いるときに、作業場に來た工場長が破砕機制御盤の主電源スイッチを			
			「切」にしたため、油圧が低下して水平投入供給ユニットが降下して			
			ローラーに頭部をはさまれた。			
2003	7	～	化学会社のトナー工場の混練設備において、攪拌（かくはん）機（直	10899	7	30～ 49
		5	径135cm、高さ105cm）の清掃作業中に、攪拌（かくはん）機底面に			
		6	ある原料吐き出し口（25cm×35cm）と回転羽根に右上腕部をはさま			
			れ切断した。			
2003	7	～	前日から混合していた原料を取り出すため、原料取り出し用のバルブ	10909	1	10～ 29
		8	を取り付けてタイル原料の混合機の運転スイッチを入れたときに、混			
		9	合機の蓋の上に乗っていた者が墜落した。			
2003	9	～	有機小麦粉使用のうどん製造ラインにおいて、作業終了後に手打式真	10109	7	10～ 29
		16	空ミキサー（ステンレス製・容量約1m3）の清掃作業を行っていたと			
		17	きに、真空ミキサーの投入口（横1020mm、縦450mm）に上半身を			
			突っ込み真空ミキサーと架台との間にはさまれた。			
2003	10	～	工場内の生麺製造室において、原料である小麦粉と塩水を混合し、こ	10109	7	30～ 49
		5	ねて生地を作る自動化された機械の稼働状況の監視中に、機械の容器			
		6	とその枠との間にはさまれた。			
2003	12	～	産業廃棄物処理工場において、6名で工場内に設置してある自走式せん	150102	7	10～
		20	断機とその周辺の清掃作業中、せん断機の刃の掃除をしていた者の姿			

		21	が見えなくなったので辺りを探したところ、ホッパー内に転落しせん断機に巻き込まれて死亡していた。			29
2004	4	15 ～ 16	有機肥料を製造する作業場において、発酵ロータリーマシン（円型旋回型）の台車の上に乗り、機械に付着した堆積物の清掃作業を行っていたところ、堆肥の上に落ち、台車の下部にあるロータリー部回転軸に巻き込まれた。	70101	7	10～ 29
2004	11	13 ～ 14	産業廃棄物中間処理場において、残土と石灰を混合するパドルミキサー内部に固着した固形物の除去作業をしていたところ、パドルミキサーが突然動き出して、パドルミキサーの回転軸に巻き込まれた。	150102	7	10～ 29
2004	11	13 ～ 14	産業廃棄物中間処理場において、残土と石灰を混合するパドルミキサー内部に固着した固形物の除去作業をしていたところ、パドルミキサーが突然動き出して、パドルミキサーの回転軸に巻き込まれた。	150102	7	10～ 29
2004	1	14 ～ 15	コンクリートやアスファルトの粉砕機の修理が終わったので、被災者が粉砕機の粉砕ローラー付近に立ち、自ら合図をし、他の者がスイッチを入れたところ、動き出した粉砕機のローラーに巻き込まれた。	10909	7	1～9
2004	9	10 ～ 11	製麺工場において、製麺が終了したので攪拌機内に付着したカスをエアガンで噴いていたところ、攪拌機の攪拌棒（2本）に巻き込まれた。	10109	7	300 ～ 499
2004	10	0 ～ 1	コンクリートミキサーの羽の裏に固着したコンクリートを取り除くため、シュートに足場を設け、コンクリートミキサーの底から頭を出してハンマーを用いて作業していたが、シュートとコンクリートミキサーとの間にある開閉鉄板が閉まり、当該鉄板とコンクリートミキサーの底との間に挟まれた。	10901	7	30～ 49
2004	2	7 ～ 8	作業場内において、生地製造工程の原材料混合機のバッチ内部の清掃作業中、突然、停止していたバッチ内部の攪拌部が起動し、攪拌棒に巻き込まれた。	10104	7	10～ 29
		10	紙オムツ製造工程において、粉砕された紙原料中に混ざった番線を取			

2004	12	～ 11	り除く作業中、微粉碎後の原料の攪拌装置の外壁を一部外して、点検していたところ、他の作業者が、停止していたファンを寸動させたため、ファンに被災者が巻き込まれた。	10602	7	10～ 29
2005	5	～ 15	二軸せん断破碎機の運転を止め、ホッパー内で作業を行っていたところ、同僚が同機制御盤のスイッチを押したためホッパーが稼動した。そのため、ホッパー内の刃部に被災者が巻き込まれた。	150103	7	10～ 29
2005	5	22 ～ 23	被災者は、石灰肥料を製造するためパドルミキサー（混合機）で消石灰と砂糖水溶液の混合作業を行った後、ミキサー内に付着している残渣物を取り除く清掃作業を行っていたところ、ミキサー内の攪拌羽根等に巻き込まれた。	10809	7	30～ 49
2005	7	～ 16	15 破碎機で発砲スチロールの破碎作業を単独で行っていた被災者が、当該機械内部の破碎板に巻き込まれた。	150103	7	10～ 29
2005	9	5 ～ 6	プラスチック原料を練り混ぜるバンバリー機の清掃のため、運転を停止し、ホッパードアから上半身を機械内部に乗り出して原料の拭取りをしていたところ、材料を上から押さえるウエイトとホッパードアとの間に挟まれた。	10801	7	30～ 49
2005	9	21 ～ 22	アルミ溶解炉から排出されたアルミ灰を破碎機の回転ドラム（直径2m、長さ6m）に投入する作業において、作業を開始するため、運転スイッチを入れたところ、破碎機のドラム内から、悲鳴が聞こえたため、運転を停止しドラム内をのぞいたところ、横たわっている被災者を発見した。	11101	7	30～ 49
2005	10	～ 15	14 固結した石化樹脂をコンベヤー式固結物破碎機でほぐす作業において、当該機械に巻き込まれた。	170209	7	100 ～ 299
2005	8	～ 17	16 廃プラスチック破碎機に廃棄塩ビ管を投入していたところ、ホッパー内に転落し、回転中の破碎機のローターに巻き込まれた。	150102	1	1～9

2005	12	16 ～ 17	生コンミキサーの清掃作業中、ミキサー内に転落した。	10901	7	10～ 29
2005	10	21 ～ 22	バンバリーミキサーのバックドアからホッパ内部に体を入れたところ、上方から自重により降下して来たラムに圧迫され窒息した。	10806	7	100 ～ 299
2005	11	16 ～ 17	工場内において、機械設備の清掃作業中に攪拌機に挟まれた。	150102	7	10～ 29
2005	11	11 ～ 12	焼却処理施設内において、破袋機のスクリーンの羽根をアーク溶接で肉盛する作業を行っていたところ、突然、破袋機が稼動し、回転したスクリーンに巻き込まれた。	30309	7	1～9
2006	1	15 ～ 16	段ボール製品製造工場において、休憩時間中、段ボールくず粉碎機に通じるピット内を竹箒で清掃中の被災者が、ピット奥にあるダクト（直径35cm、長さ198cm）に入り、進み、高速で回転するカッターで、被災した。休憩後に作業を再開した同僚が、くずが破碎されないため、ピットを点検したところ、ダクト内に被災者を発見した。	10609	7	30～ 49
2006	1	7 ～ 8	エポキシ工場において、エポキシ工場の責任者である被災者は早出し、同工場内で一人で混合機を使用してエッチ材（事務機の天板の端に貼ってある材料）の着色作業を行っていたところ、回転中の同混合機の回転軸に巻き込まれ、身体全体が振り回された。その際、金属製の扉、同混合機のマスト等に足がぶつかり被災した。	10808	7	100 ～ 299
2006	2	13 ～ 14	攪拌機（バケットタイプ、幅86cm、奥行56cm）にて粉末状の生姜湯の攪拌工程を終了し、取り出し作業中、巻込まれた。	10102	7	10～ 29
			残土捨場を拡張するため、伐木をし、その伐木をした木を移動式のク			

2006	6	13 ～ 14	ラッシャーでチップにしていた。昼休みの時に、使用していた重機の油を持ってきた業者が被災者がいないため付近を捜したところ、血痕等の付着したチップを発見し、救急車を要請したが死亡が確認された。	60201	7	10～ 29
2006	7	17 ～ 18	フェノール樹脂の玉チップを製造する作業が終了し、製品を排出し終わった後の高速混合機（直径103センチ、深さ80センチ）を清掃するため上部の蓋を開けたところ、誤ってミキサー槽内に転落し、電源を切った後の惰性で回転している攪拌羽根（最大径86センチ、重量31.90キロ）に巻き込まれた。	10899	7	30～ 49
2006	8	17 ～ 18	そうめんの原料（小麦粉、食塩水）を練り機で練る工程で、当該工程が間もなく終了する見込みとなったため、機械停止後に練り機の点検・清掃をするよう上司から指示を受け、機械の前で待機していた被災者が練り機の攪拌棒に巻き込まれた。	10109	7	50～ 99
2006	9	19 ～ 20	うどん店舗隣の麺小屋において、一人でうどん生地の製造を行っていた。被災者が掃除道具を取りにこないで、他の労働者が麺小屋に様子を見に行くと、麺練機に巻き込まれた被災者を発見した。	140201	7	30～ 49
2006	9	9 ～ 10	始業点検中、クラッシャー上部のホッパーから転落し、クラッシャーに挟まれた。	20201	7	10～ 29
2006	12	8 ～ 9	魚の粉碎機に冷凍イワシを投入している際、投入口に入り、粉碎機の刃に巻き込まれた。	70209	7	10～ 29
2007	1	16 ～ 17	廃棄物処理場において、粗大ゴミや燃えないゴミを処理するための「不燃ライン」のうち、1次破碎機の清掃・点検等の作業に従事していた被災者が、破碎機のホッパーに設けられている扉からホッパーの内部へ墜落し、約2.5m下の破碎機に巻き込まれた。（扉にはリミットスイッチが取り付けられていたが解除されていた）	150103	1	30～ 49
			被災者は、杵と臼の態様の動力機械（スタンプミル）で、金属粉の製			

2007	1	10 ～ 11	造作業を行っていたところ、動力機械の杵の部分で上下運動させるため回転している巴状の鋳物等に付着している油をウエスで拭き取ろうとして巻き込まれた。	11109	7	10～ 29
2007	6	17 ～ 18	プラスチック製品製造工場において、原料を粉砕機のホッパーに投入していたところ、原料が詰まったため、それを取り除こうとした際に手を引き込まれて切断した。搬送された病院で死亡した。	10805	7	1～9
2007	6	20 ～ 21	食料品製造工場において、室内に設置されている粉砕機に巻き込まれ、意識不明状態となっていた被災者（派遣作業員）が発見された。当該粉砕機の清掃にあたり、粉砕機の蓋を外そうとしたところ、スライド部分に食い込みが生じうまく開口できなかったため、右足で当該蓋を蹴った際に動いている粉砕機に巻き込まれた。	10109	7	50～ 99
2007	5	14 ～ 15	破砕機の上でボード製品の投入作業中、破砕機の投入口（幅10cm）に巻き込まれた。	150102	7	1～9
2007	1	11 ～ 12	被災者他2名は工場内でアルミ溶解作業を行っていた。工場長と同僚が溶解炉のある部屋で作業を行っていたが、被災者がいないことに気づき、探したところ、隣の部屋にあるチューブミル（直径1.8m、長さ5.5m。アルミを取り出した後の不純物を回転により粉砕するもの）が蓋を開いた状態で回転していたため、回転を停止し、中を見ると被災者が倒れているのを発見した。	11101	7	1～9
2007	1	13 ～ 14	加圧ニーダー内部の付着ゴムの清掃作業中に、作業員が加圧ニーダーの混合槽内に混練ゴムの残物を発見したため、加圧蓋の下降起動スイッチを押した後、混合槽内に身を乗り出したため、加圧蓋の下降が開始され、投入ドアと加圧蓋にはさまれた。	10806	7	10～ 29
2008	7	16 ～ 17	工場内の端材リサイクルプラントにおいて、端材粗粉砕機への端材の投入状況の監視作業中、粉砕機に巻き込まれなかった端材を取り除こうとして停止した粉砕機内に入ったところ、粉砕機が動き出して粉砕	10905	7	100 ～ 299

			機のクラッシャーに巻き込まれて被災した。			
2008	4	8 ～ 9	産業廃棄物処理施設内において、破碎機のカバーを開けて内部に付いた土砂等をケレン棒等で取り除く作業中、同僚が排出コンベヤーの起動ボタンと破碎機の起動ボタンを押し間違えたため、破碎機が起動して破碎機の回転部（ハンマー）と回転部をおおっている壁の間にはさまれて死亡した。	150102	7	30～ 49
2008	8	14 ～ 15	生コンクリート製造工場において、ミキサー車の運転手である被災者ら3名が製品の輸送作業終了後、製造プラントのミキサーの清掃のために主電源を切り、ミキサーの内部で清掃作業を行っていた時、ミキサーの排出ゲートを開けるために1名がミキサーから出て主電源を入れたところ、ミキサーが作動して内部の2名が攪拌羽根に巻き込まれて1名が死亡した。	10901	7	1～9
2008	2	10 ～ 11	攪拌機付き移動式タンク（高さ約210cm、重さ523kg）をフォークリフトでつり上げて移動後、当該タンクを二人で手で押して移動させていたところ、当該タンクが倒れて被災者が下敷きとなり死亡した。	170209	6	1～9
2008	10	14 ～ 15	被災者が、コンクリートの原料を混合するミキサー（直径2.8m、高さ1.5m）の内部で底板の張替え作業を行っていたところ、突然、ミキサーの電源が入り、回転する混練羽に巻き込まれて死亡した。	10901	7	1～9
2008	1	7 ～ 8	木くず再生処理を行う破碎機において、磨耗したハンマー部の肉盛（溶接）工事を終えた後、被災者が回転軸部分のある破碎機内部に入って溶接部の写真撮影を行っていたところ、他の作業者が破碎機を始動させたため、破碎機に巻き込まれて死亡した。	150102	7	1～9
2008	12	1 ～ 2	当事業場は、前日の午前8時から機械を停止していた。被災者は同僚と2人で宿直勤務（操業をしていない日に行う。）を行っていて、2人は午前1時頃に社内をパトロールした後、一度、休憩室に戻って来た。その後、被災者がいなくなったので同僚が社内を捜したところ、被災者がダスト調湿装置内にはさまれて逆さの状態になっていた。	150102	7	30～ 49
		10				100

2008	10	～ 11	粉砕機に廃材を投入作業中、巻き込まれた。	11502	7	～ 299
2008	10	16 ～ 17	被災者は、フレコンバックに入っている発泡スチロールを発泡スチロール処理機（発泡スチロールを細かく砕いて溶かす機械）に投入していたところ、ホッパー内に転落して鉄製のシャフトに巻き込まれた。	10805	1	50～ 99
2008	6	～ 12	パーカーではいだ杉の樹皮を木屑（バーク）にする作業を行っている工場に設置された粉砕機において、被災者が投入コンベヤーから落とされる樹皮を受ける粉砕機の投入口から粉砕機内部の回転刃に巻き込まれた状態で発見された。投入口上部に設置されたフードの側面には開口部（扉が損傷して開放された状態、縦54.5cm×55cm）があった。	10401	7	100 ～ 299
2008	11	12 ～ 13	コンクリートミキサーの開口部（幅1.18m、高さ0.58m）に袋入り（6kg）の粉状の顔料を投入作業中、コンクリートミキサー内に転落して攪拌軸に巻き込まれた。	10901	1	10～ 29
2009	8	12 ～ 13	建築用廃材を破砕機にて破砕作業において被災者は、破砕機コンベヤー付近の清掃中、テーブルプーリーに身体をはさまれた。	150102	7	10～ 29
2009	7	17 ～ 18	被災者は、一人で側溝の蓋板製造ラインの生コン投入ホッパーの掃除を行っていた。しばらくしてホッパーの側を通った事業主がうめき声に気づき、ホッパー内を見たところ、被災者が攪拌機のシャフトにはさまれていた。	10901	7	10～ 29
2009	4	8 ～ 9	代表者と被災者の2人にて、バッチャプラント（生コン製造プラント）の部品（ミキサゲートの内張部品）を交換する作業の準備作業中、代表者がミキサゲートを稼働させたところ、ホッパー内にいた被災者が、ミキサゲートと生コンの放出口の枠との間にはさまれた。	11702	7	1～9
			被災者は、残土リサイクル施設に設置された粘性土フィーダーのホッパーの回転刃に付着していた土を清掃するため、回転刃の上に直に載			

2009	3	17 ～ 18	り、ホッパー下のフィーダーベルト（コンベヤー）に土を落としていた。フィーダーベルトに除去した土が堆積したため、被災者がコンベヤーラインを回すよう他の清掃作業を行っていた作業者に指示したところ、同作業者が全てのラインを動かしたため、被災者は回転刃に巻き込まれた。	150103	7	1～9
2009	1	13 ～ 14	破砕処理機で石膏ボードの破砕作業を一人で行っていた作業者が何らかの原因で破砕部（回転部）に詰まった金属片等を取り除くため回転部に手を入れ巻き込まれ、被災者の悲鳴で他の作業者が機械を停止させたが、巻き込まれた作業服によって身体を圧迫され被災した。なお、回転部の覆いは破損により当時取り外されていた。	150102	7	10～ 29
2009	2	18 ～ 19	被災者は、同僚と2人で緑茶の抽出プラントの清掃作業をしていた。被災者が攪拌機を停止して中に入り、かす等を取り除く作業を行っていたところ、同僚の作業者が誤って攪拌機の起動ボタンを押したため、攪拌機に巻き込まれた。	10106	7	100 ～ 299
2010	1	11 ～ 12	破砕機（リサイクルクラッシャー）等により再生骨材を製造する作業場において、被災者が破砕機の下部のベルトコンベヤー部を動かしながら、ベルトのずれを調整しようと破砕機下で作業を行っていたところ、破砕機下部とベルトコンベアとの間に挟まれた。建設廃材を持ち込んだ取引業者が発見したもの。	10909	7	1～9
2010	1	14 ～ 15	被災者は出張先である上記アスファルト製造事業場にて、アスファルトミキサーのホッパー排出口に取付けられてある開閉蓋の裏蓋補強板の取替え作業を行っていた。当時被災者は、蓋の収まり部分のバリ取りをするため、蓋の開スイッチを押し、蓋を開放して排出口から覗き込むような態勢で当該作業を行っていたところ、作業を行っていた最中にヒューズが切れ、自動的に閉まりだした開閉蓋に頸部及び肩部を挟まれ死亡したもの。なお、当該修理作業は当日のみの仕事であった。	11702	7	1～9
			被災者は、あんこを製造する釜の清掃作業を1人で行っていた。釜内			

2010	4	13 ～ 14	部をホースを用いて水で羽根などに付いたあんこの残留物を取り除こうとして、釜内の攪拌用羽根が回っている状態で作業を行っていて、羽根に巻き込まれた。約2ヶ月後に入院していた病院で死亡した。	10104	7	50～ 99
2010	5	5 ～ 6	工場内で加圧型ニーダーを用いてプラスチック樹脂とカーボンの混練作業を行っていたところ、加圧蓋の下降レバーと他のレバーを間違っ て操作すると同時に混練槽を覗き込んだため、混練槽と加圧蓋の間に 頭部及び右手指を挟まれたもの。	10801	7	50～ 99
2010	6	12 ～ 13	昼休み休憩時間中、被災者の叫び声に現場内で休憩していた労働者 が、コンクリートガラ破砕機（長さ約1m、直径20cmのローラー とローラーの間）に右足の股まではさまれている被災者を発見した。 レスキュー隊により救出されたが搬送先の病院で死亡が確認されたも の。昼休み前に当該機械は運転を停止させていたので、機械の運転再 開や被災者の行動は目撃者がおらず不明である。	30209	7	10～ 29
2010	7	10 ～ 11	混合機内に立ち入り清掃作業中、排水始動スイッチを操作しようと して、隣の粕練混合機の起動スイッチを誤操作し、回転した混合機内の 羽に巻き込まれた。	10103	7	30～ 49
2010	7	9 ～ 10	作業員6名は、災害発生地において、タンク2基の内部表面に付着し たものを除去することとなった。被災者2名は、17立方mのタンク 内部に入り、他の作業員から渡された足場材の設置作業を行った。内 部で清掃作業中、同作業を把握していない他の労働者が攪拌機の起動 スイッチを押したため、タンク内のプロペラ状攪拌機（軸はタンク内 中心から垂直に立ち、3つの攪拌するプロペラ状を持つ）が回りだし た。この時、被災者1名が攪拌機の巻き込まれ死亡、他の1名が打撲 した。	150101	7	10～ 29
		16	水道局の浄水場において、河川水の沈殿池（取水した水に含まれる泥 やごみなどを凝集剤と呼ばれる薬品を加えて凝集させ、汚泥として沈 殿させる池）の改良補修工事のため、沈殿池の上澄み液を取水する開			

2010	10	～	渠内にて、スクレーパを停止しないで、開渠へ取水する穴をふさぐボルトの締め付け作業を行っていたところ、被災者がスクレーパ（沈殿した汚泥の掻き寄せ機）のガイドローラーにはさまれて、圧迫され死亡したもの。	30110	7	1～9
2011	3	～	鶏糞肥料製袋工程における肥料供給機において、製袋工が肥料をほぐす攪拌棒に巻き込まれ死亡した。被災者は午前8時から一人作業（肥料の袋詰）を行っていたが、午前8時50分頃、上記状態にあるのを同僚に発見されたもの。なお当該機械の回転部には、前・側部ともに囲い込み（高さ90cmのコンパネ製）がなされていた。	70101	7	10～ 29
2011	6	～	使用済み砥石のリサイクル処理工程において、ジョークラッシャーで破碎された砂状の砥石粒が排出用フレキシブルダクトの内部で詰まったので、担当作業者がダクト内部の詰まり状態を解消するためダクト近くのロッドミル（回転ドラム式粉碎機）のメンテナンス用作業台上り、当該ダクトをハンマーで叩いていたところロッドミルの回転ドラムに身体が巻き込まれたもの。	10909	7	100 ～ 299
2011	4	～	生コンプラントにおいて、ミキサー内部に付着したコンクリートをミキサー開口部側から削岩機を使用して除去する作業を行っていたところ、ミキサーの開口部が上昇しないよう固定していた木製ストッパーが折れ、その反動でミキサー開口部が上昇して、ミキサーと投入ホッパーの間に顔面をはさまれ、出血性ショックにより死亡したもの。	11209	7	1～9
2011	12	～	小型移動式クレーン後部に積載されているコンクリートミキサーを洗浄作業中、稼働していたミキサーに挟まれ死亡したもの。	30309	7	10～ 29
2012	8	～	印刷機のラインを設置する工事現場において、ラインに付属する原版搬送装置の調整作業を単独で行っていた被災者は、当該装置のストロークする部分と当該装置付近のガイドローラーに頸部をはさまれ、救急搬送されたが、窒息により死亡した。	30302	7	10～ 29
			被災者は、キノコの菌床を製造する工場において、攪拌機でトウモロ			

2012	11	8 ～ 9	コシ粉などの原材料を混合する作業を行っていた際、攪拌機の天端で袋詰めされた原材料を投入していたところ、誤って稼働している攪拌機内に転落し、粉状の原材料に埋もれた状態で発見された。救急搬送されたが、粉状の原材料に気道を塞がれ窒息死した。	10109	1	50～ 99
2012	8	9 ～ 10	被災者は立坑掘削工事に使用する仮設資材の移動作業を行っていたところ、当該仮設資材に隣接して設置されていたモルタルミキサー（高さ約2m）が被災者に向かって倒れ、被災者はコンクリート製の擁壁と倒れたミキサーとの間に頭部を挟まれ、脳脱により死亡した。	30199	5	1～9
2012	11	7 ～ 8	被災者はプラスチック原材料を攪拌するヒータミキサー内に立ち入って掃除作業を行っていたところ、同僚作業者がヒータミキサーの起動スイッチを押したためヒータミキサー内の攪拌羽が回転し、攪拌羽に巻き込まれて死亡した。なお、同僚労働者はクーラミキサーの起動スイッチを押すつもりであったが、誤ってヒータミキサーの起動スイッチを押したため、本件災害が発生した。	10805	7	50～ 99
2012	1	16 ～ 17	被災者は不定形耐火物の混練機（高さ約1m、直径約2m）内のかくはん羽根に全身を巻き込まれた状態のまま発見された。発見時、混練機上部の原料投入口の蓋が開いており、何らかの原因で運転中の混練機内に転落した。	10909	7	10～ 29
2012	10	10 ～ 11	被災者は廃材（木材）を粉砕機を使用し粉砕していた。作業内容は、グラップルで廃材を粉砕機に投入し、粉砕された廃材はマグネットを装着した重機で混在している金属を取除き、粉砕された廃材を山に寄せていた。作業開始後しばらくして、グラップルのオペレーターである被災者の姿がなかったので捜したところ、粉砕機内に巻き込まれているのを発見された。	150102	7	1～9
2012	10	17 ～ 18	コンクリート二次製品製造業の工場建屋内に設置してあるコンクリート攪拌機の上部の枠（ヘリ部分）に立ち、高圧洗浄機を用いて、攪拌機内部のスクリー部分（枠から1.3m下部分）を洗浄していた被災者は、右足をスクリーに巻き込まれた。	10901	7	10～ 29

2013	3	8 ～ 9	堆肥舎において、発酵堆肥製造機（堆肥場のルール上を走行しながら堆肥をかき混ぜる機械）のかき混ぜ棒が外れたため、同機を一時停止させて修理していたところ、同機が自動で再起動して当該かき混ぜ棒が付いている同機のロータリー部に巻き込まれた。	70101	7	10～ 29
2013	3	14 ～ 15	中間処理施設において、木屑を処理するラインの第1クラッシャーの補修作業中、補修したコンベアの試運転を行うため同僚が配電盤の電源スイッチを入れた際、クラッシャー内部でスクリーを溶接補修していた被災者が巻き込まれた。	150102	7	1～9
2013	1	8 ～ 9	被災者は、粉碎機の運転管理を行っていた。災害発生当日、4台のダンプトラックが原石を粉碎機に投入し、5台目のダンプトラックが原石を投入しようとしたところ、粉碎機に不具合が生じたため、ダンプトラックの運転手が被災者を呼ぼうとしたが見当たらず、ベルトコンベア先の粉碎した石の山の中に被災者が埋まっているところを発見された。	20201	7	10～ 29
2013	6	11 ～ 12	コンクリート殻の破碎作業を、被災者を含む3名で行っていたところ、コンクリート殻の投入口であるホッパー近くにあるジョークラッシャー（圧砕機）の開口部から被災者が転落し、圧砕部に挟まれ死亡した。	150102	7	10～ 29
2013	1	1 ～ 2	被災者は、樹脂を混合する機械の清掃作業を行っていた。樹脂を混合機に送り込む投入路の最上部付近に、樹脂を押し込むための錘を最上部まで上げて隙間を作り、ストッパーで錘を保持して、中2階床面付近から投入路に身を乗り出して作業をしていた際、ストッパーのレバーを固定するブロックが破損し、ストッパーが外れたため錘が急落下し、被災者は頭から右腕にかけて投入口と落下した錘との間に挟まれた。	10805	7	10～ 29
		8	使用済みのフレキシブルコンテナを粉碎機に投入し加工する作業中、労働者が頭を打ち死亡した。尚、災害発生現場近くにいた者によると、被災者がフレキシブルコンテナを粉碎機に投入する際、つりベル			

2013	3	～ 9	トが被災者の腕に引っ掛かり、粉碎機の巻き込む力が強かったため、「被災者は体ごと粉碎機に引き付けられ、投入口の下端に頭を打った」と。	10805	3	1～9
2013	11	～ 15	清掃センターにおいて、ごみ破碎機の定期点検で、破碎機内部の破碎刃の清掃を行っていた際、破碎刃を動かす必要があるため、作業指揮者が被災者に破碎刃を動かすことを告げ、階下にある操作盤に向かい、合図を行った後操作盤の運転スイッチを入れたところ、被災者が破碎機内部の破碎刃上に入っており、破碎機に巻き込まれた。	150103	7	30～ 49
2013	11	5 ～ 6	製麺加工用ミキサーを用いて小麦粉と塩水を練ってうどん生地を加工中、蓋を開けて練具合から塩水の分量を目視で確認した後、誤ってミキサー内の攪拌棒に右腕を挟まれたことで上半身がミキサー内に入り込んだ。救出されたが、頸部圧迫による窒息で死亡した。	10109	7	1～9
2013	5	18 ～ 19	生コンを練るミキサーに付いたコンクリート等を除去する清掃作業のため、ブレーカーによるはつりや水圧洗浄機による洗浄を、被災者を含め3名で行っていた。停止していたミキサーが動き出し、はつりを行っていた被災者がミキサーに巻き込まれた。	10901	7	10～ 29
2013	12	～ 10	流動化土再生処理プラントの攪拌機上部にあるミキサー排出口がうまく開閉しない不具合が発生したため、被災者を含む二人の作業員が点検修理に取り掛かった。被災者が機内に入り、サンダーで削る不具合箇所がわかるように赤色のスプレーを吹付けた後、もう一人の作業員がリモコンで上部の開閉部分を動かそうとしたところ、下部の攪拌翼が作動したため被災者は体を挟まれ、すぐにリモコンの非常停止装置を押したが死亡した。	30201	7	10～ 29
2013	6	13 ～ 14	被災者は、石膏原料を攪拌する機械の上部の羽と、下部のスクリューの間に巻き込まれている状況で発見された。	10909	7	1～9
		15	プラスチック製品などの廃品を破碎機で断裁中、廃品が詰まったため			

2013	11	11 16	取り除こうとしたところ、機械に巻き込まれて死亡した。	150102	7	1～9
2013	10	14 15	産業廃棄物処理業の工場内にある、廃コンクリート破碎機の選別工程部分（ピッキングエリア）の内側に付いたコンクリートを電動ピックで研って（はつって）取り去った後、蓋（ふた）を閉じて密閉するため、地上高さ約4.3メートルの通路付近で蓋のボルト締め作業を行っていた際、地上に墜落した。尚、直接の目撃した者はいない。	150102	1	30～ 49
2013	1	16 17	災害復旧工事現場において、被災者は、他の労働者1名と法面モルタル吹付作業に使用したミキサー（セメントと砂を混合する機械）の清掃作業を行っていた。被災者が、ミキサーの側面のドアを開放し、ミキサーの内側に付着したセメントをハンマーで叩いて落としていたところ、回転していた攪拌用の羽根に左手から頭部を巻き込まれた。	30199	7	1～9
2014	11	9 10	古タイヤの粉碎を行う作業場にて、起動している粉碎機のブレード部に挟まったタイヤを取り除くため、手すりから身を乗り出し、足で押し出そうとしていたところ、巻き込まれた。	150102	7	10～ 29
2014	11	11 12	倉庫前にて、被災者がクローラ自走式の樹木粉碎機を積載型トラッククレーンの荷台に積み込む作業を行っていたところ、急性多臓器不全にため、停車したクローラ自走式の樹木粉碎機の後ろで倒れている被災者が発見された。	30199	2	10～ 29
2014	10	20 21	鑄造用の砂の混練機に異常の発生があり、確認のため混練機上部の修理扉を開け、内部確認を行おうとしたところ、混練機内に墜落し、混練機に巻き込まれた。	11002	1	50～ 99
2014	7	12 13	プラントの運転中、被災者は、乾燥炉内に設けられた製品を砕く粉碎機のシャフトに巻き込まれた状態で発見された。	10806	7	1000 ～ 9999
2014	7	11 12	碎石プラントにて、碎石機への原石の投入作業中、碎石が積み上げられる石山の上方で倒れている被災者が発見された。	20202	7	1～9

2014	6	16 ～ 17	ミキサーの清掃作業中、被災者は、ミキサー内で大腿部を攪拌羽に挟まれている状態で発見され、死亡した。	10901	7	10～ 29
2014	1	8 ～ 9	被災者は、解体現場等から持ち込まれた廃石膏ボードを粉碎するリサイクル工場にて、二軸スクリーンの破碎機で石膏ボードを破碎し、コンベアでサイロに搬送する工程に従事していた際、破碎機内に立ち入り、スクリーに挟まれた。	10909	7	1～9
2015	8	0 ～ 1	被災者は、反応器の駆動ユニットのメンテナンス作業を行っていたが、勤務終業時刻に被災者が戻って来なかったため、同僚が捜したところ、被災者が当該駆動ユニットのステーター架台部等（約500キログラム）と床に頭部を挟まれ、仰向けに横たわっているのを発見した。なお、災害発生時、被災者は一人でメンテナンス作業に従事していたため、災害発生時の目撃者はいない。	10109	7	10～ 29
2015	7	9 ～ 10	被災者は、製品である固形燃料の材料の破碎機が材料の詰まりにより止まったため、破碎機内に入り詰まった材料を取り除く作業を行っていた。作業は、破碎機を停止して行っていたが、一緒に破碎機の調整を行っていた同僚が、被災者が破碎機内にいることを知らず、破碎機を作動したため、被災者が破碎機に巻き込まれたもの。	10899	7	1～9
2015	2	7 ～ 8	養殖カンパチのえさの原料（鯖等を30cm、60cm、10cmに氷漬したもの）を砕くクラッシャーの作業台に乗り、原料を投入していた被災者がクラッシャーの回転刃に巻き込まれたもの。	70201	7	1～9
2015	5	7 ～ 8	飼料庫に設置された混合機を使用して飼料の混合作業に従事していたところ、被災者が混合機内のスクリーに全身を巻き込まれて死亡した。被災者は死亡しており、災害発生時は1人作業であったため、詳細な発生状況は不明。	70101	7	10～ 29
		9	混練機の上部の3箇所（50.5×35.7cm×3箇所）の内、材料投入側から水分添加量を確認しようとしたが、			

2015	11	～ 10	粉じんがひどく確認できなかったため、中央部の点検口に設置していた集じん用フードを取り外し、投入口側の点検口に移動させようと持ち上げた時、足を滑らせて中央部の点検口から落下し、混練機のスクリーに巻き込まれて死亡したもの。	10809	7	30～ 49
2016	10	～ 17	被災労働者が、コンクリートミキサー内の清掃中に、注油作業をしようとした別の労働者が当該ミキサーを稼働させたため被災した。	10901	7	30～ 49
2016	9	～ 16	被災者は、工場内にある破碎機の清掃を行うため、破碎機投入口のコンベアの開口部から機械内に入ったが、稼働していた破碎機の羽根に巻き込まれて死亡した。	10805	7	1～9
2016	6	～ 15	リサイクル工場で、投入コンベアの上から粉碎機内の材料を確認中、誤って稼働中（回転中）の粉碎機に転落し、全身が機械に巻き込まれた。	10805	7	1～9
2016	1	～ 15	発泡スチロール減容機（発泡スチロールを砕いて溶かす機械）にベルトコンベアで発泡スチロールを流す作業中、破碎ローラーに巻き込まれた。	150103	7	50～ 99
2017	12	～ 15	マンガダストとセメントを混ぜ合わせてペレットを製造する工程において、マンガダストとセメントを混ぜ合わせる「パグミル」と呼ばれる混合機（幅68.5センチ×長さ331センチ×深さ57.5センチ）の清掃作業を被災者が一人作業で行っていたが、機械室の一括故障ランプが表示され、作業長が現場に確認に行ったところ、混合器のスクリーに両足と左腕を巻き込まれている被災者が発見された。	11009	7	100～ 299
2017	11	～ 13	有機肥料を製造するプラントの運転を行っていた被災者が、原料投入口（ホッパー）の下部に設置されているシャフトに挟まれている状態で発見された。	11709	7	1～9
			製紙工場の抄紙機のプレスローラー及びベルトコンベヤーの5か所のベアリング（直径15cm幅1cm）の交換作業において、ベアリン			

2017	6	16 ～ 17	グ交換作業を終えたが、取り外したコンベアーシャフトを戻す際にベルトコンベヤーのベルトがねじれていたため、粉碎機の中に立ってベルトを直していたところ、被災者の頭上のコンベヤー端部に設置された粉碎機の起動用リミットスイッチに触れたため粉碎機が動き出し足から全身を巻き込まれた。	11702	7	10～ 29
2017	3	12 ～ 13	トンネル工事現場に設置された生コンプラントにおいて、プラント作業員であった被災者が、生コン混練用ミキサーに全身を巻き込まれて死亡した。	30102	7	10～ 29
2017	1	16 ～ 17	被災者は、苗用の土の製造工程において、翌日に行う他品種の土の製造に備えるため、機械を停止し、ほうきを使用してコンベア部等の掃除を行っていた。清掃作業終了後、被災者は機械を起動させたが、シャフト部周辺に除去出来ていない土を発見したことから、これを手でかき落とそうとしたが、シャフト部には直角に9 c m間隔でスクリーが存していたことから、右上腕が巻き込まれた。	60101	7	10～ 29
2018	10	8 ～ 9	攪拌機に原料を投入作業中に、原料の入ったカゴと共に攪拌機内に転落し、原料が溶けた液（約60℃）により熱傷を負ったもの。入院加療中であったが、後日死亡したもの。	10899	11	300 ～ 499
2018	8	16 ～ 17	新リサイクル工場内において、被災者はフライアッシュとセメントを混合するミキサー内の清掃及び給油作業を行っていたが、他の作業員がミキサーの運転開始操作を行ったため、被災者がミキサー内で挟まれたもの。	10901	7	10～ 29
2018	6	12 ～ 13	被災者は現場内に置かれたセメントミキサーのドラムの内部に入りドラム内部のセメントの除去を行っていた。同僚の作業員（外国人技能実習生。国籍ベトナム。）がドラム内部に人がいるにもかかわらず、ポンプを作動させドラムに残留水を吸い上げようとしたところ、ポンプ作動ボタンと間違えてプラント作動ボタンを押してしまい、ドラム内部の攪拌翼が回転し、当該攪拌翼に被災者の足が巻き込まれ被災し、後日死亡したもの。	30199	7	10～ 29

2019	9	8 ～ 10	自走式破砕機の修理を行うため、破砕する木材を入れる投入口を油圧で上に持ち上げた状態で、同機械に上がって破砕機部分の点検を行っていたところ、投入口が下がり、投入口と破砕機本体の間に頭部をはさまれ、死亡した。	11701	7	1～9
2019	4	8 ～ 10	被災者は、漁港内に設置された砕氷供給機（ポッパ―上部から投入された氷を攪拌し、下部に設けられた供給口から定量ごとに排出するもの）のホッパー内に積み上げられた氷を崩す作業を行っていたところ、ホッパー内に落下し、ポッパ―内に設けられた攪拌棒に下半身を巻き込まれ、外傷性ショック死した。なお、目撃者不在だが、災害発生状況から、被災者はホッパーの端又は氷の上のぼって作業を行っていたと推定される。	70201	7	30～ 49
2019	3	6 ～ 8	牧草等と配合飼料を粉碎・混合し家畜飼料を製造するためのトラクターを動力源とした移動式のみキサー車で、被災者はみキサーから製造し終えた飼料の取り出しを行い、その後の運搬作業を別の作業者に引継いだ。引継いだ作業者が残存した飼料があったためみキサーを駆動させたところ、みキサー内部にいた被災者がスクリーに巻き込まれて死亡したもの。	80209	7	1～9
2019	2	18 ～ 20	事業場工場内のコルゲート棟コルゲートラインにおいて、被災者が、不良品段ボール等を細かく裁断するシュレツダーに、段ボールの切れ端を投入する作業（正確には段ボールを当該機械の前に設置されているコンベアの上に放り投げる作業）に従事していたところ、何らかの理由により、当該機械に手を伸ばした結果、当該機械のロール状の歯車に右手を巻き込まれ、そのまま頭部まで巻き込まれて、頭部圧挫創により即死したもの。	10602	7	50～ 99
2019	1	14 ～ 16	被災者ら4名は工場3階から、パドルみキサーに原料の粉体を投入した後、2階の粉体の混合室において、混合室内の掃除をしていた。被災者がパドルみキサーの排出口を覗き込んだところ、回転の軌道にあった投入口が被災者の背後から接近し、投入口と排出口の間に肩、	10803	7	50～ 99

			首を挟まれ被災したものの。			
2020	12	14 ～ 16	建設廃材を再利用するためのリサイクルプラントにおいて、コンクリート塊を破碎するためのシングルクラッシャーのホッパー付近でコンクリート塊が閉塞したため、被災者はホッパー周囲に設置された通路上からコンクリート塊の閉塞を解消しようとしていたところ、ホッパー内に転落し、コンクリート塊とともにシングルクラッシャーにはさまれて被災した。	150102	1	1～9
2020	12	8 ～ 10	当該事業場は、プラスチック容器を製造する事業場であり、災害は製造工程で出る端材を粉碎する機械の保全中に発生した。被災者は、粉碎機の刃の交換のため、粉碎機の上半分のカバーを開け、チェーンブロックで固定して閉じないようにし、刃の交換作業を行っていたが、チェーンブロック外れていたため、カバーが自重で閉じ、被災者の頭部がカバーと防音壁の間にはさまれ死亡した。	10805	7	300 ～ 499
2020	10	10 ～ 12	オーガフィーダー（乾式メタン発酵設備）の清掃作業に6名従事。作業指揮者の指示により部下がオーガフィーダーの運転スイッチを押したところ、機械内部に入っていた被災者2名が回転する2軸スクリュウに巻き込まれて1名が死亡し、残り1名が被災したものの。	170209	7	1～9
2020	4	14 ～ 16	砂型の原料を混ぜ合わせる混練機が不具合を起こし停止したため、混練機の内部に入って掃除等の作業を行っていた。他の作業者が混練機内部で作業していることに気づかず起動スイッチを押し作動させたため、当該機械の攪拌機に巻き込まれて被災した。	11002	7	10～ 29
2020	4	14 ～ 16	化成肥料工場内の廃肥料搬送用ベルトコンベアのかさ上げ・アジャスト工事において、被災者は、仮設単管足場の作業床でコンベアアングルの仕上げ塗装作業を行っていたところ、作業床の脇で稼働中のため回転していた冷却キルンの胴体外側に取付けてある剥離用ハンマーに、着用していた安全帯ランヤードが引っ掛かり、キルンの回転に巻き込まれた。キルンの上部で安全帯ランヤードに吊られた状態で被災者が発見された。	30309	7	1～9

2020	2	<p>同僚が被災者の大きな声を聞き、向かったところ、廃プラスチック粉</p> <p>16 碎機のローラーの間に足先から骨盤までを挟まれている被災者を発</p> <p>～ 見。救出後に病院に運ばれたが死亡した。一人で作業を行っており、</p> <p>18 現認者はいない。救出にあたった者の話では、間違えてリモコンのボ</p> <p>タンを押してしまった旨被災者自身が話していたとのこと。</p>	150102	7	10～ 29
------	---	---	--------	---	-----------

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/SIB_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

Return to https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_05.html